

「伊勢志摩里海学舎構想について」

～ 11月教養講座の要約 ～

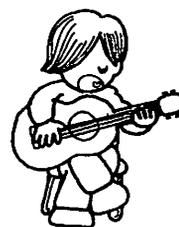
志摩市の65歳以上の高齢化率は35%で、南伊勢高校は廃校になるそうです。

人口の流出を抑えて少子化を止めるためには、高校（水産高校、志摩高校など）を守ることが大切です。

水がない志摩地域では、大きな工場を誘致することは出来ません。

松井教授の提案するウィークデイに宿泊施設をお客さんで埋める作戦として、

- ・ 食、景観だけではない志摩市の売り方
- ・ 大型宿泊施設以外の利用促進
- ・ 志摩市全体の施設、フィールドの利用促進
- ・ 起業促進、法人化の勧め
- ・ 兼業の勧め を挙げられました。



実際に東京でアコヤガイの解剖実習を授業料1万円で行ったりしたそうです。

また、立命館と志摩市が提携したことをビジネスチャンスとして捉えてほしいとのこと。立命館には47,355名、三重大学には9,196名の学生や教職員がいます。

水産高校の施設を三重大学の学生に利用させるなど、大学生が往き来できる環境を整備できないか。また、小中学生の宿泊、臨海、環境学習の場の提供を具体的に提案。

私立学校では海の学び舎として臨海学校のニーズが高い。

- ・ 里海学舎内の移動手手段の確保
- ・ 長期滞在できる宿泊施設の確保
- ・ 家族体験型・学習プログラム
- ・ リピーターの充実と確保 等を話した。

従来志摩の人々は、自然、景観、温暖な気候を利用して、真珠や農業、観光の仕事で生計を立ててました。

里海、里山をなぜ志摩市が力を入れているのかと言えば、「地元の子どもたちが志摩で仕事をして、生計を立てるプロジェクト」であり、「僕らの老後を豊かにさせるためのプロジェクト」なのです。

残念ながら、市民にその意識が高いとは言えませんが、無関心が自分たちの将来を暗くすることは間違いありません。最後に、松井先生から皆さんに考えてほしい宿題を5つ。

- 1 学べる、遊べる、稼げるの流れについてどう考えますか
- 2 里海学舎はどうあるべきか
- 3 学校法人立命館や三重大学の連携をどのように進めるべきだと思いますか
- 4 地域に「人を残す」「人を受け入れる」ことについて何が重要だと思いますか
- 5 地域で「人、企業、市役所、学校」の役割を発展させ、連携させる手立てはあるのか。何を
するのか。何ができるか。でした。（～この宿題は一度みんなで討論の必要ありと思う。）

【以上。中嶋聡のブログで自分のこころをみつめようから】